

ナスの露地と施設栽培で土着天敵を保護・強化するリレー体系

(徳島県)

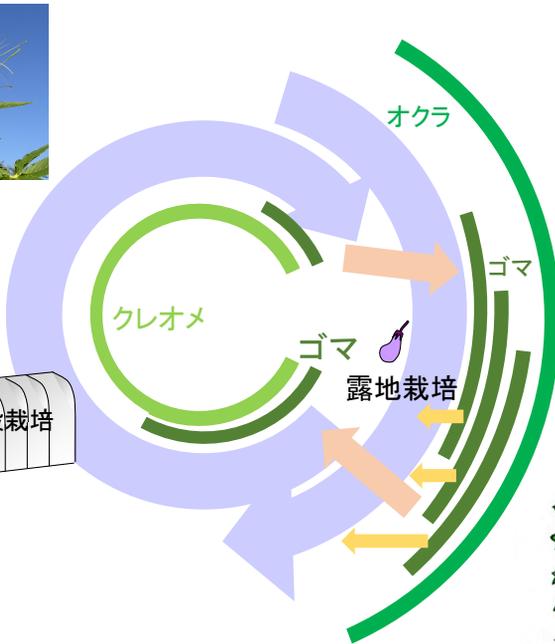
《オクラとゴマ等で土着天敵の働きを強化》

ポイント

- ナスの露地圃場周囲にオクラを植栽し、アザミウマの土着天敵であるヒメハナカメムシ類の働きを強化する。
- ナスの露地圃場内や施設内にゴマやクレオメを植栽し、アザミウマ等の土着天敵であるタバコカスミカメを循環利用する。



クレオメ



タバコカスミカメはアザミウマ等の土着天敵ですが、雑食性なのでゴマやクレオメに寄生し増殖します。



ゴマやクレオメを露地と施設に植栽することで、タバコカスミカメを殖やします。殖やした虫はそれぞれの栽培終期に他方の栽培体系へ人為的に移すことで周年利用できます。



ヒメハナカメムシ類は、オクラ先端部に特異的に発生します。オクラでの発生が多くなると、ナスでも多くなります。



注: 曲線矢印や帯は、ナスや温存植物の栽培期間を示す。
直線矢印は天敵の人為的移動を示す。

露地ナス圃場にオクラをソルガムと併せて植栽する場合には、オクラを内側に植栽するのが適当であるが、ソルガムの陰となる南側は避け、二から三方に植栽する(図1、2)。具体的には、1m程度の畝幅に10~15cm程度の間隔で5~6粒の種子を2条に点播する。品種は‘まるみちゃん’がよい。

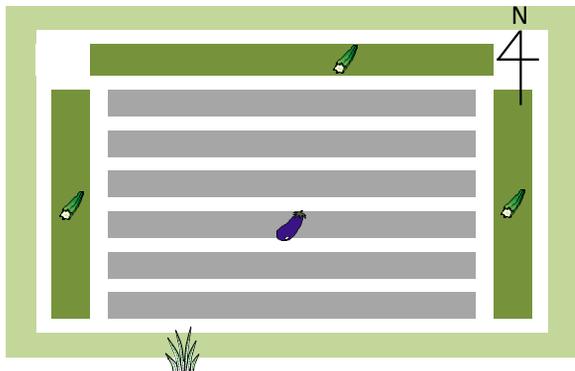


図1 露地ナス圃場におけるオクラ植栽デザイン
注) 着色は各作物の植栽領域を示す。



図2 オクラを植栽したナス圃場

《ゴマ等によるタバコカスミカメの循環利用(ゴマまわし)のポイント》

1. ゴマはナス畝の端(図3)などに1か月ごとに植え付ける。生長したら、支柱に固定する。
2. タバコカスミカメが殖えたら、タバコカスミカメが集まっているゴマの先端部を切断し、ゴマごとナス上へ移動する。
3. 施設内の土壌消毒が完了したら、すぐにゴマを空きスペースに植え付け、露地で採集したタバコカスミカメを放飼する。また、露地の栽培終期にはゴマごとタバコカスミカメを施設へ移動する。
4. ゴマは冬季には枯れるので、ゴマに加えてクレオメも植栽する。
5. 春季には、前年秋に地面に落ちたゴマ種が発芽し、生育した茎葉にはクレオメで冬越ししたタバコカスミカメが再び発生する。
6. 初夏には、このゴマとクレオメで殖えたタバコカスミカメを植物ごと露地へ移動する。



図3 ナス畝の端に植え付け、生育したゴマ

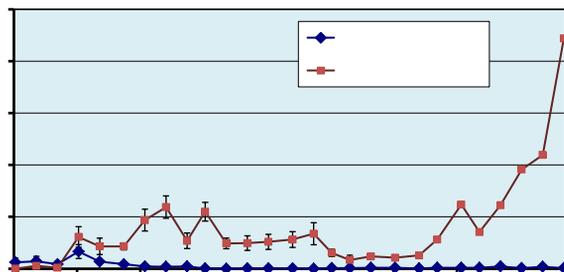
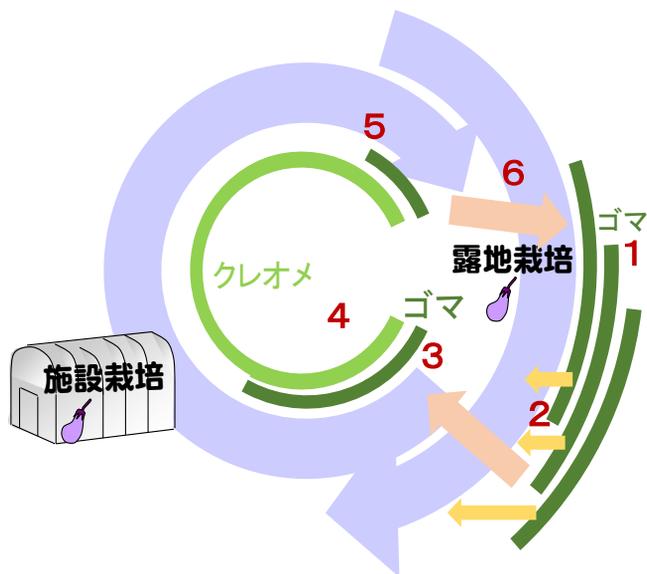


図4 施設ナスにおけるミナミキイロアザミウマの発生推移 (2014~2015)

- 注1: 上記図中の数字は、《ゴマまわしのポイント》の項目を示す。
- 注2: 曲線矢印や帯は、ナスや温存植物の栽培期間を示す。
直線矢印は天敵の人為的移動を示す。



タバコカスミカメによる高い防除効果

実践農家の声

施設ナス栽培の24年度作は、アザミウマの被害と燃油高騰の影響を受け、赤字経営でしたが、26年度作より土着天敵タバコカスミカメを活用したので、秀品率は上がりました。また、農薬の使用回数が激減したことで、経費が抑えられましたし、被ばくや労力が減ったことはありがたいです。消費者の方にも安全安心なナスを届けられます。

